

目的 技術・家庭科の男女共修における家庭系列の学習内容に対する興味を明らかにす  
 るため、一対比較法で同様な調査を2グループに実施した。

前期	後期
技術(男・女)	家庭(男・女)
家庭(男・女)	技術(男・女)

4月 ← → 10月 ← → 3月  
 た。共修の形態は、各学年左団の通りで、10月半ばまでの前期に技術系列、それ以後の後期に家庭系列を学習するグループと、その反対の学習順序をとるグループとがある。なお1・2年は週2時間とも共修、3年は週1時間は共修、2時間は別修であった。

方法 家庭系列の学習が前期のグループには4月と10月に、後期のグループには10月と3月に、それぞれ学習前と学習後の調査を同一調査用紙を用いて行った。調査対象は広島大学附属中学校1年、2年、3年の合計350名であった。調査用紙の質問項目は、現行の中学校技術・家庭科学習指導要領を参考に、のぞましい指導計画を立案して、その中から11項目を精選し、55対の一対比較項目を作成した。

結果 前期後期、ならびに男女を通じて高い興味を示されたのは、各学年とも「調理実習」で興味が高かったのは、1年男子「繊維の種類と特徴」、女子は「青少年の栄養」、2年男子「成人の栄養」、女子は「成人の栄養」、「水と熱源の利用」、3年男子に顕著なものではなく女子は「人口の老齢化」、「老人福祉」であった。学習の前後に顕著な上昇が見られたのは、1年前期で男女の「ミシンの使い方」、2年全部で「洗剤のなたうき」、3年前期で男女の「老人食」下降は1年で「調理実習」、2年前期で「食物費と生活費」、3年で「人口の老齢化」である。